

初倉地域

1 地域の将来像

「自然と共生し多世代が活発な交流を生み出すまち」

2 地域づくりの目標

(1) 初倉公民館を中心とした便利で暮らしやすいまち

地域の拠点となる初倉公民館周辺において、医療・福祉・商業・子育て支援施設などの都市機能の誘導を図り、便利で暮らしやすいまちづくりを目指します。また、子どもから高齢者までが地域の中で交流ができるよう、将来の学校跡地などを活用した交流拠点の創出に努めます。

(2) 豊かな自然環境を未来へつなぐまち

茶畑、桜並木、大井川などの地域の特色ある自然環境を保全するとともに、身近な緑を活用し推進を図ることで、水と緑を未来へつなぐまちづくりを目指します。また、地域内に点在する耕作放棄地などを農業体験や環境学習等の場として活用することで、人と自然がつながるまちを目指します。

(3) 初倉の歴史・文化を体験できるまち

歴史的・文化的資源について一層の活用を図るため、各拠点間をつなぐ歴史・文化ネットワークの形成に努めます。

(4) 車に頼らなくても快適に暮らせるまち

公共交通が不足している交通空白地においては、多様な公共交通のあり方を検討し、地域のボランティアなどによる助け合い運転や送迎サービスなどの推進により、快適に移動できるまちづくりを目指します。また、地域内交通の円滑化を図るため、安全な道路空間の整備に努めるとともに、島田駅や六合駅、富士山静岡空港へのアクセス性の向上を図ります。

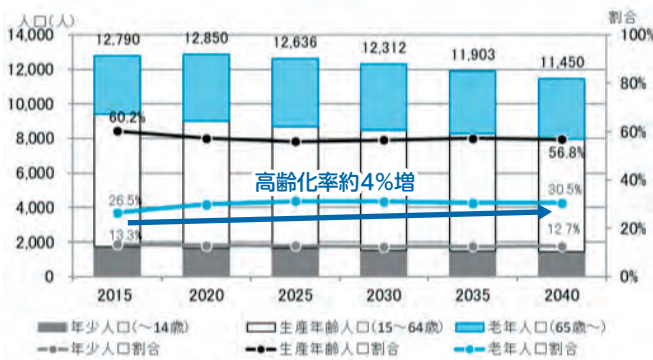


3 初倉地域の概況

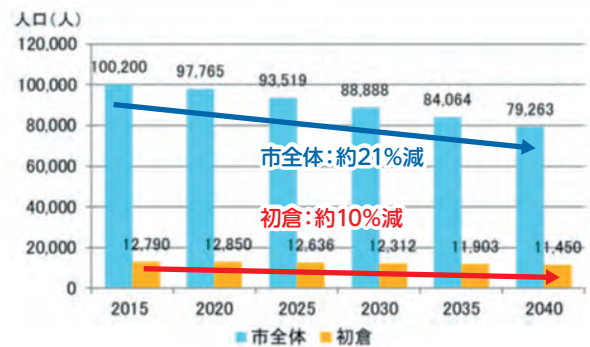
(1) 位置・人口

- ・初倉地域は、本市の南部に位置し、南側は牧之原市・吉田町に接し、北側及び東側は大井川に面しています。
- ・本地域の南西部を除き都市計画区域に指定されており、このうち大井川沿いの一部が用途地域に指定されています。
- ・今後の人口推移については、2015年から2040年までの25年間で約10%減少することが予測されています。一方、高齢化率については、25年間で約4%増加し、2040年には約31%になることが予測されています。

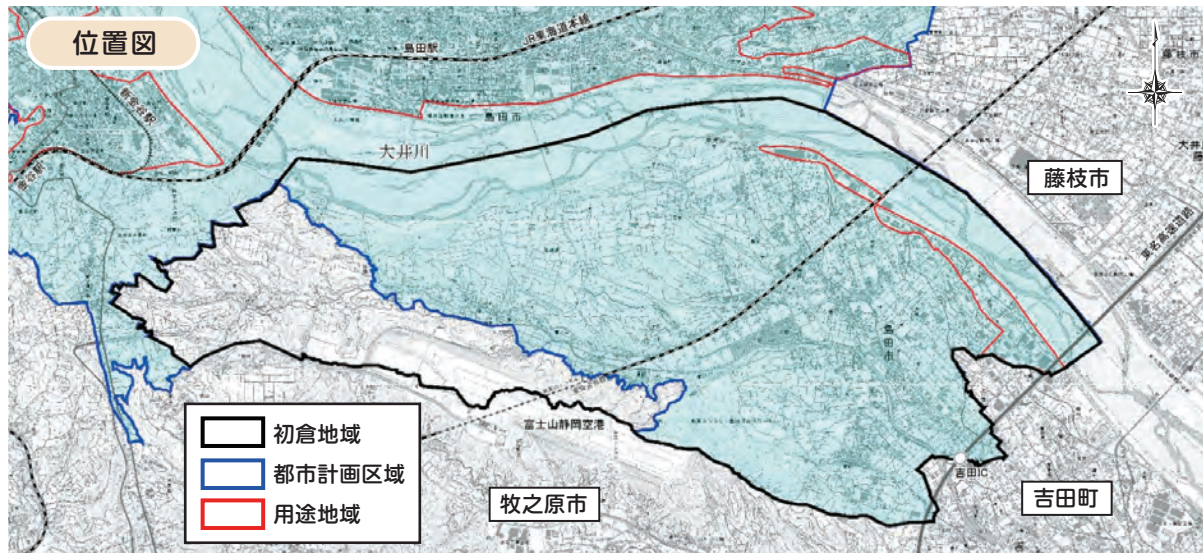
初倉地域の人口推移予測 (2015→2040)



市全体と初倉地域の人口推移の比較(2015→2040)

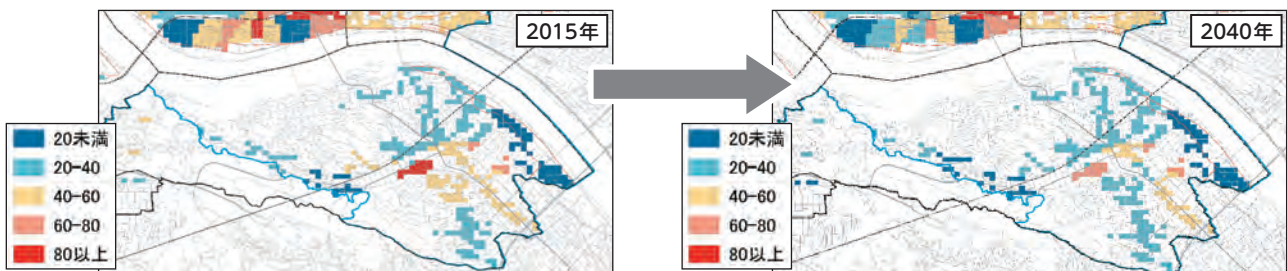


出典：島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン令和元年度改定版



国土地理院1/25,000地形図を加工

人口密度の推移予測

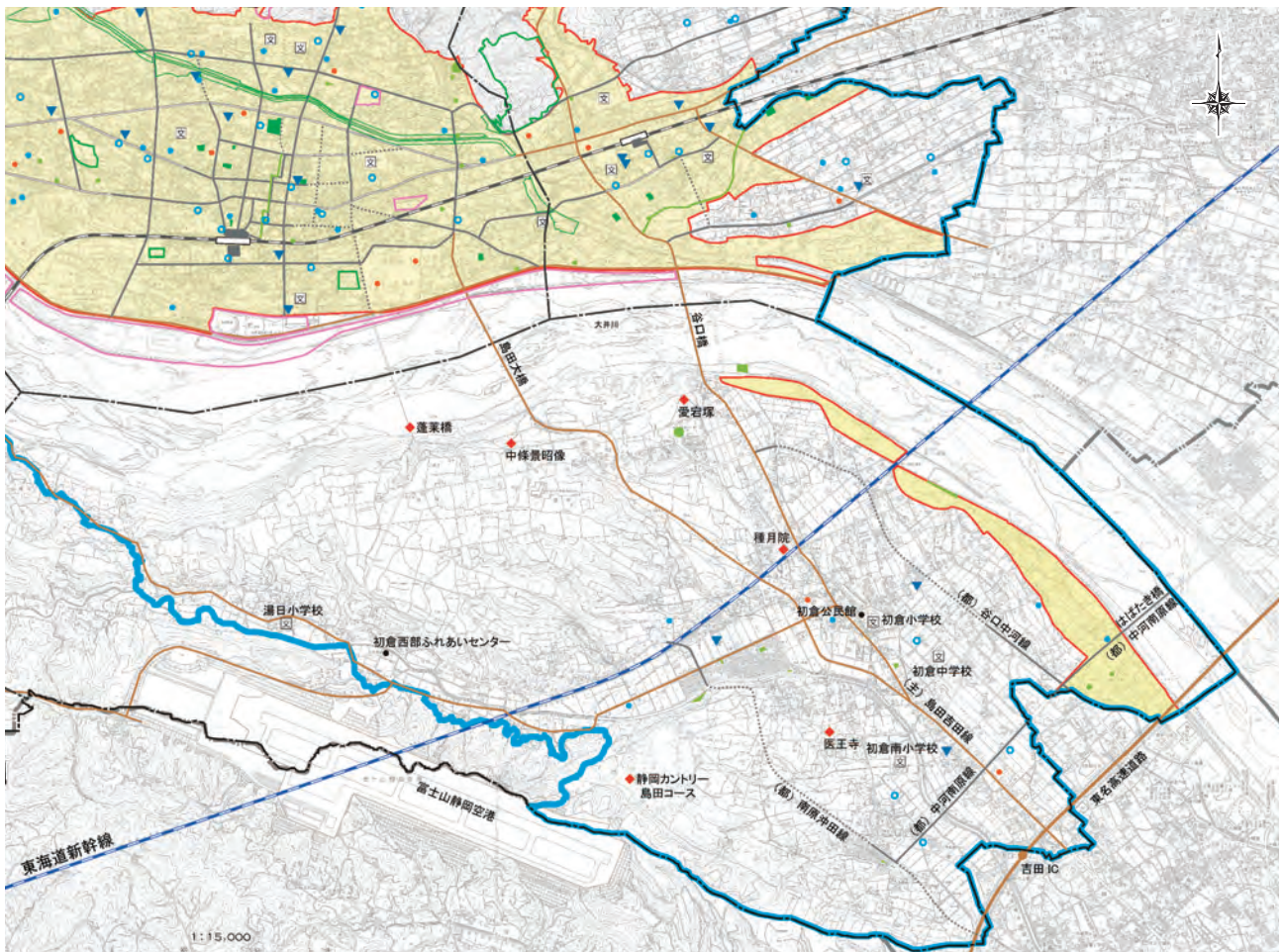


出典：将来人口、世帯予測ツール(国土交通省国土技術政策総合研究所)

(2) 都市施設・公共公益施設などの状況

- ・(主) 島田吉田線が、地域と中心市街地を結ぶ幹線道路となっています。また、大井川を渡る島田大橋・谷口橋・はばたき橋が整備されています。
- ・世界につながる富士山静岡空港が立地しており、空港のアクセス道路として(一) 住吉金谷線が通っています。
- ・初倉公民館周辺など市街地・集落地に、学校、保育園、医療施設、高齢者福祉施設、商業施設などが分布しています。

都市施設・公共公益施設図



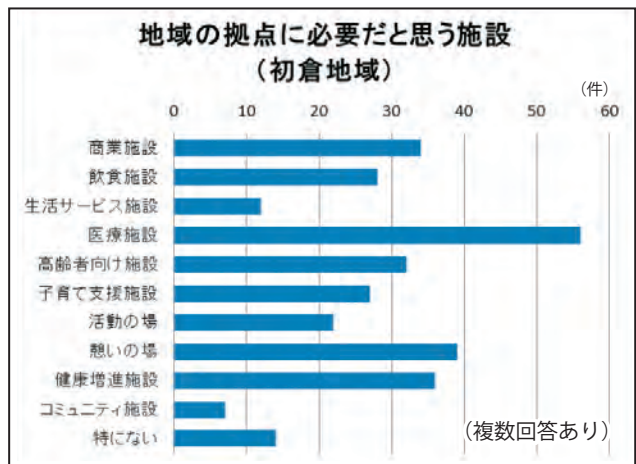
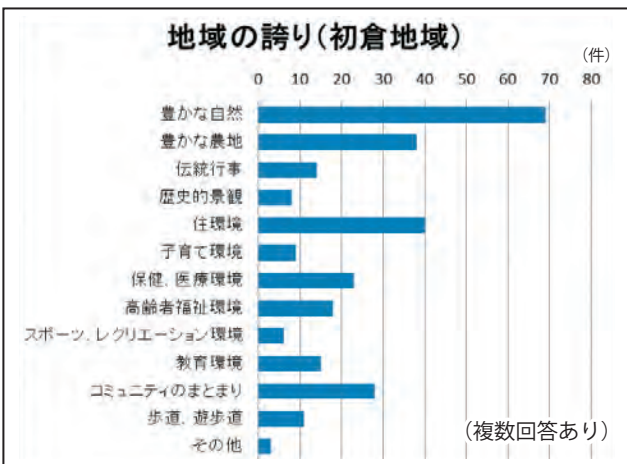
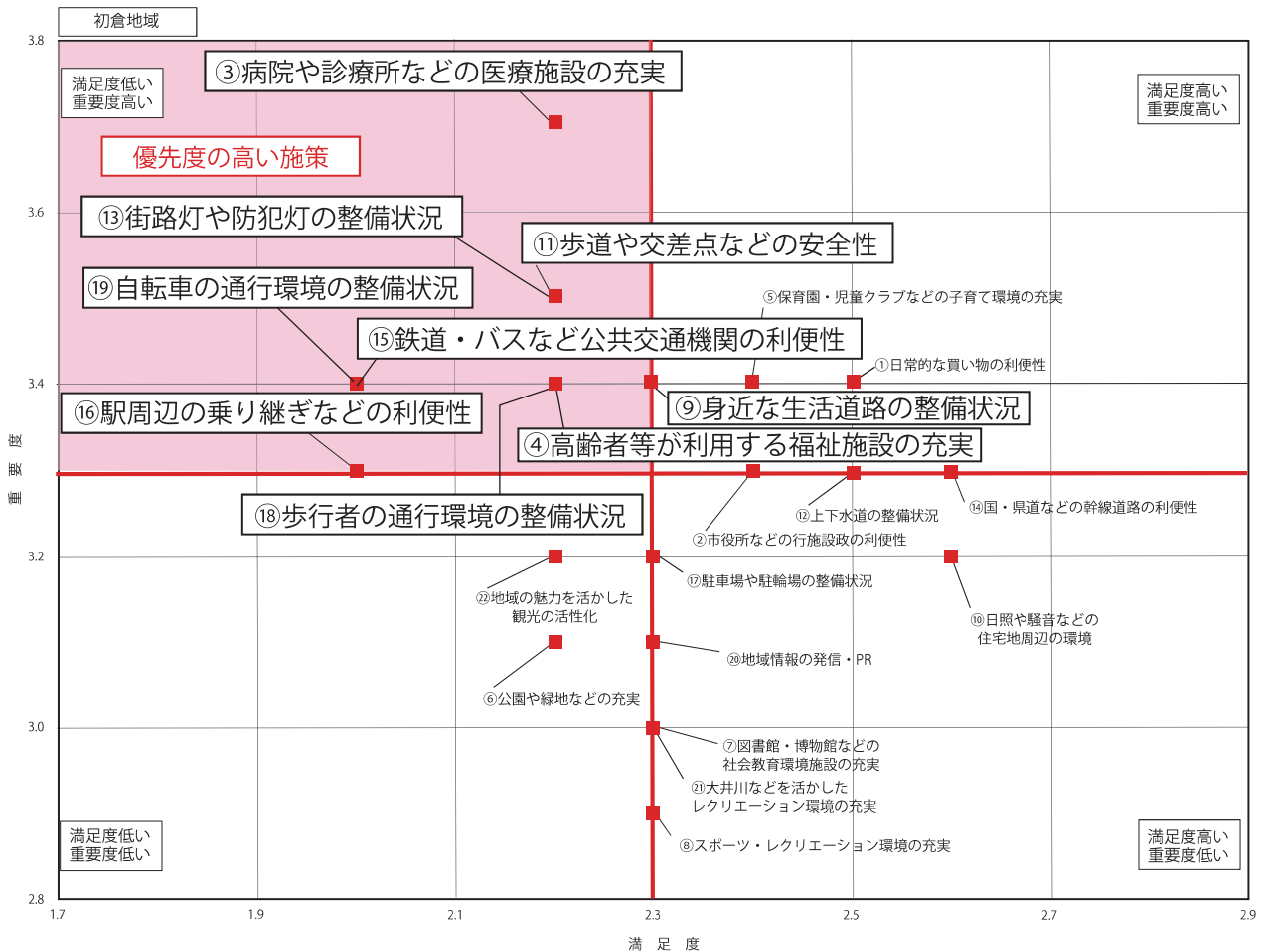
都市計画道路	都市計画公園	公共公益施設(現況)	
— 改良済	■ 整備済	□ 学校	● 医療施設(内科・外科)
— 概成済	□ 計画	● 主要な公共公益施設	● 商業施設(店舗面積1,000㎡以上)
⋯⋯ 未改良	□ 一部整備済	◆ 歴史・文化・観光施設	□ 初倉地域
— その他の主要道路	● その他公園緑地	▲ 幼稚園・保育園	□ 都市計画区域
		● 高齢者福祉施設	■ 用途地域



(3) 都市計画マスタープラン市民意識調査結果(初倉地域回答数118)

- ・地域のまちづくりにおける満足度・優先度から読み取れる優先度の高い施策については、医療施設の充実、防犯・交通安全性の向上、公共交通機関の利便性、歩行者・自転車の通行環境や生活道路の整備などが挙げられています。
- ・地域の誇りにについては、「豊かな自然」、「住環境」、「豊かな農地」などに多くの意見がありました。
- ・地域の拠点に必要なと思う施設については、「医療施設」が最も多く、次いで「公園・広場」、「健康増進施設」、「商業施設」、「高齢者向け施設」などの意見がありました。

地域のまちづくりに対する満足度・重要度



4 初倉地域の全体構想の位置付け

【地域の拠点】

- ・地域拠点：初倉公民館周辺

【軸】

- ・自然の骨格軸：大井川
- ・国土軸：東名高速道路
- ・都市間連絡軸（道路）：（主）島田吉田線
- ・構想路線：（仮称）鎌塚橋、（仮称）大善橋、空港アクセス道路



5 初倉地域の課題

コンパクト・プラス・ネットワークの都市づくりの実現に向けた地域の課題を次のように整理します。

- 今後の人口減少を踏まえ、初倉公民館周辺の地域拠点において、医療・福祉・商業などの都市機能の維持・充実及び周辺の人口密度の維持を図る必要があります。
- 既に医療・商業施設などが立地する幹線道路（（主）島田吉田線など）沿道においては、適正な土地利用を図る必要があります。
- 都市間・拠点間連携軸の充実及び構想路線の整備などにより、交通渋滞の緩和や安全な歩行空間の確保を進めていく必要があります。
- 地域の拠点施設である初倉公民館などを交通結節点とし、効果的・効率的な公共交通網を形成していく必要があります。
- 浸水想定区域や土砂災害の危険性があるエリアが存在し、ソフト・ハードにわたる防災・減災の取り組みを進める必要があります。
- 大井川や森林などの良好な自然環境、大茶園、川沿いの桜並木などの保全・活用を図る必要があります。また、愛宕塚古墳、中條景昭像などの歴史資源なども含め、自然・歴史・文化と調和した良好な景観の形成を推進する必要があります。



6 地域づくりの方針

【初倉地域】

(1) 拠点づくりの方針

ア 地域拠点の都市機能の向上

地域拠点については、初倉公民館周辺を位置付け、道路整備や公共施設の再編などと併せ、医療・福祉・商業・子育て支援といった都市機能の誘導を行うとともに、各地域からのアクセスがしやすい公共交通の確保を図ります。

初倉公民館（くらら）



イ 地域住民の憩い・交流空間の整備

地域拠点においては、地域住民の憩い・交流空間となる公園について、「緑の基本計画」の見直しなどを通じ、公園のあり方や民間による柔軟な利活用について、市民ニーズを踏まえ検討します。

(2) 土地利用の方針

ア 地域拠点周辺の利便性の高い居住環境の形成

地域拠点周辺については、生活利便性を活かし、保全すべき農地の明確化と計画的な都市的土地利用への転換に向け検討し、子育て世代をはじめ多世代が住みやすい快適な居住環境の形成を図ります。

イ 幹線道路沿道の整備

(都) 中河南原線、(主) 島田吉田線の沿道は、自動車交通の利便性が高いことを考慮し、保全すべき農地の明確化と都市的土地利用との調和に努めます。また、社会情勢の変化に合わせ適正な土地利用への転換に向け検討します。

(主) 島田吉田線の沿道



吉田インターチェンジ周辺については、立地の優位性を活かし計画的かつ、適正な土地利用を検討します。

ウ 企業誘致の推進

既存工業地域の未利用地については、地権者の意向を踏まえつつ、工業用地としての整備を図り、県などの関係機関へ情報提供を進めるとともに、企業誘致を推進します。

また、既存企業の動向を注視し、市外流出が起らないよう情報の収集に努めます。

エ 集落地環境の保全

集落地については、自然や農地に囲まれた良好な環境を保全し、快適な居住環境の形成を図ります。

オ 市営住宅の維持

南原住宅については、「島田市営住宅等長寿命化計画」に基づき、快適な住環境の確保と長期的な活用のため、長期的視点に立った維持管理を推進します。

カ 空き地・空き家の利活用

今後、増加が予測される空き地・空き家については、リノベーションなどにより地域住民の交流の場などとしての活用や所有者と活用したい人のマッチングなどを通じた利活用を検討します。

(3) 交通の方針

ア 幹線道路の整備

幹線道路の整備については、広域交通網の形成のさらなる強化を図るため、中心市街地と本地域とをつなぐ大井川の新架橋、本地域と金谷地域を結ぶ(一)住吉金谷線、(一)吉田大東線、はばたき橋の4車線化、空港周辺の道路整備について関係機関に働きかけます。

また、(都)谷口中河線、(市)色尾大柳線などの整備を推進します。

イ 生活道路の整備・修繕

快適な生活の基盤となる生活道路については、歩行者の安全性・快適性を高めるため、市民との協働を図りながら管理を行い、拡幅整備や修繕は、優先度を踏まえつつ計画的に推進します。

狭あい道路については、地権者協力のもと、拡幅・整備を促進します。

また、通学路については再点検を行い、安全確保のため、歩道、交通安全施設(ガードパイプ)、路面標示などの整備を推進します。

ウ 歩行者ネットワークの形成

島田駅から蓬莱橋を經由して、中條景昭像、湯日地区の拠点、更に富士山静岡空港や金谷地域に至る歩行者軸と大井川、湯日川を軸とした歩行者軸による回遊性のある歩行者ネットワークの形成を図ります。

エ 交通結節点の整備

初倉公民館などにおいて、バスなどの乗り継ぎの利便性を高める取り組みに努めます。

オ バスなどの公共交通の充実

公共交通については、移動ニーズに合わせたバス、タクシーなどの効果的・効率的な運行を検討します。また、地域主体の自家用有償旅客運送制度の導入を検討します。将来的にはICTなどを活用した移動サービスの導入を検討します。



カ 富士山静岡空港の利便性向上

富士山静岡空港については、更なる利便性向上に努めるとともに、富士山静岡空港新幹線新駅の実現に向けた取り組みを県と連携して推進します。

(4) 安全安心・コミュニティの方針

ア 河川整備

大井川については、「大井川水系河川整備計画」に基づき必要な改修を国に働きかけます。湯日川については、緊急性・重要性を踏まえ、改修を県に働きかけます。

浸水想定区域においては、大雨時に市民などが災害時に適切な避難行動が取れるよう、洪水ハザードマップの周知や自主防災組織による地区防災マップづくりを促進します。

イ 土砂災害対策の推進

土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域については、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」に基づき、危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅の新規立地の抑制などの対策を推進します。

ウ 避難路の安全性向上

避難路については、家屋の倒壊対策や危険なブロック塀などの撤去を推進し安全性を高めます。

エ 防犯・交通安全の推進

防犯対策については、地域の要望に応じ、自治会や町内会が行う防犯灯のLED化を支援します。

交通安全対策については、交通事故発生箇所の把握や地域要望などを踏まえ、カーブミラー、ガードレールなどの交通安全施設の整備を推進します。また、信号機や横断歩道の整備を関係機関に働きかけます。

通学路については、犯罪の防止・抑止や交通安全のため、地域における見守隊などの活動を積極的に支援します。

オ 学校などにおける地域交流機能の充実

地域活動や生涯学習の支援については、学校などの施設を地域に開放し利用を促進するとともに、地域の防災拠点として活用します。

将来学校の統合により生じる跡地の建物や土地については、地域ニーズや立地特性を踏まえ、効果的な活用を検討します。

カ 各種コミュニティ施設の活用

地域のコミュニティ機能については、公民館・ふれあいセンターなどを生涯学習や市民活動・交流の拠点として、また地域子育て支援センターなどを子育て支援の拠点として活用します。



(5) 活力・魅力づくりの方針

ア 自然・歴史資源の継承と活用

地域資源を活用した魅力づくりについては、天然記念物の種月院のなぎ、のたり松や愛宕塚古墳、中條景昭像などの歴史資源を継承するとともに、牧之原大茶園の眺望を文化・観光資源として活用します。

イ 歩いて楽しめるみちづくり

蓬萊橋、中條景昭像、社寺、湯日地区の拠点、湯日川沿いなど、歩いて楽しいルートについて、市民協働により一層魅力的な計画づくりを検討します。

湯日川沿いの遊歩道のイメージ(市民会議より)



ウ 大井川河川敷の整備・利活用

大井川河川敷の整備・利活用については、市民が多様なスポーツ・レクリエーションの活動の場として活用できるよう、市民の意見や利用者ニーズなどを踏まえ取り組みます。

エ 地域資源を活かした産業誘致

産業誘致については、大井川の豊かな水や観光資源、特産品、物流機能、企業立地など、地域の優位性を積極的に情報発信して、企業の誘致を促進します。

(6) 環境との調和の方針

ア 農業環境の保全・活用

本市の基幹作物である茶については、茶畑の優良農地を保全するとともに、集積・集約化を図ります。

農地については、国土や自然環境の保全、水源かん養、景観形成、災害時の防災空間などの多面的機能を有することから、都市的土地利用との調整を行う中で、「島田市農業振興地域整備計画」などによる適正な保全管理に努めます。

また、農業体験の場や地域住民と都市住民との交流の場として活用します。



イ 自然環境の保全・管理

居住地周辺の緑や社寺林を保全するとともに、富士山静岡空港周辺は、集落地との緩衝機能と自然環境育成機能を持つ緑地を維持・保全します。

山林の保全・管理を促進し、大井川を縁取る緑地を維持するとともに、自然環境との調和に配慮した土地利用を推進します。

ウ 水辺の環境・景観整備

湯日川については、市民に親しまれる景観形成のため桜並木の維持保全を市民協働により促進します。

また、県に改修整備や浚渫などの維持管理の実施を働きかけるとともに、河川愛護団体への活動支援など、市民と協働で取り組む水辺環境の保全を推進します。

エ 地域の自然・歴史・文化と調和した景観づくり

牧之原台地の山林については、保全をするとともに、大茶園を活かした特色ある景観形成を図ります。

また、中條景昭像周辺については、市街地が眺望できる良好な区域として景観の保全に努めます。

中條景昭像と眺望



オ 工業地緑化の推進

大井川沿いの工業地については、周辺環境に配慮し、事業者による敷地内の緑化を促進します。

カ 環境にやさしいライフスタイルへの転換

低炭素・循環型都市の形成のため、住宅については、太陽光発電や蓄電池の設置、雨水浸透ますの設置など、移動については公共交通や自転車・徒歩で移動しやすい環境の整備を促進します。



初倉地域 将来構想図



	都市計画区域		以下、構想に係わるもの
	用途地域		地域拠点
	住宅地		観光・交流ゾーン
	工業地		幹線道路沿道整備ゾーン
	集落地		地域交流機能
	森林・緑地		交通結節点
	農地		都市計画道路(※未整備区間を含む)
	学校(現況)		その他の主要道路
	主要な公共施設(現況)		公園緑地(※未整備・都市公園緑地以外を含む)
	歴史・文化・観光施設		公共交通拠点間路線(多様な交通手段)
	東海道本線		公共交通地域間路線(多様な交通手段)
			歩行者・自転車ネットワーク
			構想路線(骨格)

